

## 前置胎盤の帝王切開術を受けられた患者さんの

### 検体・情報を研究に利用することについてのお知らせ

小倉医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。本研究に関するご質問等がありましたら下記の[当院の問い合わせ窓口]までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、当該研究に検体・カルテ情報が用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の[当院の問い合わせ窓口]までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

[研究課題名] 前置胎盤の帝王切開術における止血法の後方視的検討

[当院の研究責任者] 産科医長 川上浩介

#### [研究の背景]

前置胎盤の帝王切開術は大量出血を来すため、産科手術の中でも難易度の高い手術の一つです。前置胎盤の手術に臨む執刀医は多くの止血手技を有していることが望ましいと考えます。当院では前置胎盤の出血に対してメトロイリントを用いたバルーンタンポナーデ法 (IBT 法) を用いた止血術および vertical compression suture を用いた止血術 (VCS 法) と IBT 法と VCS 法を併用した止血術を行っており、手術時の出血の重症度に応じて執刀医が適切な止血方法を選択して、子宮温存、母体救命に努めています。

#### [研究の目的]

IBT 法と VCS 法ともに有効性と安全性の報告はありますが、多くの症例で IBT 法と VCS 法を行った報告は少ないのが現状です。当院では長年に渡り、IBT 法と VCS 法を行い、子宮温存、母体救命に努めてまいりましたので、両法の有効性と安全性を再度検討することを目的としています。

#### [研究の方法]

##### ●対象となる患者さん

前置胎盤の患者さんで、西暦 2011 年 4 月 1 日から西暦 2022 年 9 月 30 日の間に前置胎盤の帝王切開術を受けた方

##### ●研究期間：西暦 2022 年 10 月 1 日から西暦 2023 年 9 月 30 日

##### ●利用する検体、カルテ情報

(臨床研究に関する公開情報/単施設実施用)

カルテ情報：

胎盤剥離後の止血方法

- ・バルーンタンポナーデ法の施行
- ・vertical compression suture の施行
- ・子宮動脈塞栓術、子宮摘出術の施行
- ・その他の止血方法の施行

前置胎盤の特徴を含む患者背景（年齢、性別、身体所見、超音波検査所見）

手術時間

術中および術後の出血量

合併症の有無

- ・短期的合併症（感染など）
- ・長期的合併症（その後の妊娠中の癒着胎盤など）

●検体や情報の管理

検体や情報は当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[当院の問い合わせ窓口]

国立病院機構小倉医療センター

産科医長・川上浩介

〒802-8533 北九州市小倉南区春ヶ丘 10 番 1 号

電話 093-921-8881